

ウクライナ人道危機 国際赤十字赤新月社連盟緊急救援

国際医療救援部 国内救援係長 河合 謙佑

派遣期間:2022年3月25日～7月25日

派遣地 :モルドバ共和国

2022年2月24日以降、ウクライナ各地で激しくなった戦闘により、多くの人びとが自分の住まいから避難を余儀なくされています。必要な支援を届けたい、その一心で、国際赤十字はウクライナ国内、ウクライナの周辺国、そして避難した人びとがいる第三国において支援活動を継続しています。

私は国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)の緊急救援要員(ロジスティクス部門、倉庫管理責任者)として、ウクライナ西部に隣接するモルドバ共和国(以下、モルドバ)に派遣されました。

モルドバについて

みなさんはモルドバという国をご存知ですか?2月24日以降、テレビなどの報道でこの国について知るようになった人も多いのではないのでしょうか。実は私もその一人です。モルドバについて簡単に紹介します。

面積	九州より少し小さい
人口	257万人(大阪市は274万人)
言語	公用語はモルドバ(ルーマニア)語、ロシア語も一般に通用
気候	北海道より少し北に位置しています。 夏の最高気温は30～40度、冬の最低気温はマイナス20～10度。
特産	ワインが有名で、国内のいたる所でワインを製造。各家庭でもホームメイドワインを作っています。



2月24日以降、ウクライナからモルドバの国境を超えた避難民は57万人以上、そのうちモルドバに避難している人は約9万人です(2022年8月15日 UNHCR 発表)。この9万人のうち約95%に対しては、モルドバ国民がホストファミリーとなって自宅で生活支援を行っています。

日本赤十字社で最初の派遣職員

ヨーロッパ最大級の人道危機とよばれる同危機に対し、日本赤十字社も早期に救援金の募集など援助を開始しています。3月上旬には医療支援の可能性が上がり、日本赤十字社が保有する野外病院(病院型緊急対応ユニット)の出動も検討されました。この野外病院の資機材の多くは、当院および大阪府内に保管しています。結局現地ニーズや安全状況の変化により野外病院の出動は無くなりましたが、レントゲン撮影装置はウクライナ国内で必要となり、当院から空輸しました。

そして、日本赤十字社からの最初の派遣職員として私は3月25日にモルドバに派遣されました。

業務内容

連盟の緊急救援要員(ロジスティクス部門、倉庫管理責任者)としての主な業務内容は以下のとおりです。連盟はモルドバ赤十字社を支援することに重点を置いており、私の活動もモルドバ赤十字社が行うロジスティクス業務を支援することが中心となりました。

- ① 倉庫管理
- ② 輸送管理
- ③ 調達
- ④ 車両管理
- ⑤ 支援物資の配布
- ⑥ モルドバ赤十字社のロジスティクス部門の強化
- ⑦ 災害対応

いくつか業務の紹介をします

【倉庫管理】

連盟とモルドバ赤十字社は、支援物資を保管するための倉庫を首都キシナウに借りました。倉庫スペースは1,000 m²の新しい建物ですが、倉庫内には保管用の機材などが何も無く、一からセットアップする必要がありました。

倉庫は使用目的や保管する物品内容などを基に、保管方法や倉庫内レイアウト、配備する倉庫資機材などを決めます。今回の倉庫利用は約1~2年の短期間につき、保管する物品を置くための棚などは使わずに平面置きとし、物品を移動するための機材もハンドパレットなど簡易なものを用意しました。しかし、倉庫を健全に機能させるための基本的なルールは守っています。例えば壁面から一定距離を空けて通路(火災対応にも利用)を確保する、保管時の積載高の制限などです。

倉庫のセットアップの他に、保管物品の在庫管理、効果的な倉庫利用の計画立案、モルドバ赤十字社が雇用した倉庫担当者への倉庫運営のトレーニングなども行いました。

【調達】

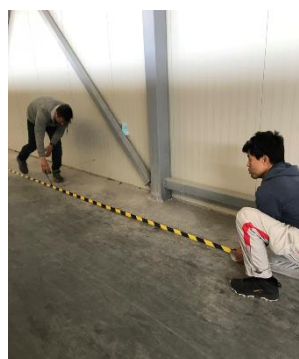
人道支援活動を円滑に行うために、私たちは様々な物品やサービスを調達します。例えば通信機器や倉庫関連資機材の購入、書類の翻訳や支援物資の輸送といったサービスを提供する会社との契約、オフィススペースや車のレンタルサービスの利用などです。

調達のプロセスは、調達に要する金額や調達品の特性に応じて連盟で定められています。理由の一つは、社会が求める説明責任を適切に果たすためであり、全世界で行われる調達に組織として共通の仕組みを設けています。

これら調達を行う上で、常に重要な働きをしてくれるのが現地のスタッフです。活動地の市場や商習慣を誰よりも理解しており、言語や人とのやりとりも彼／彼女たちの生活の一部ですので、効率よく調達を進めることができます。連盟チームもモルドバの方を2名雇い、現地企業との契約やサービス品質の評価などに大きく関わってもらっています。



支援物資の内容を確認



倉庫内の通路確保



衛生キット（目安：家族5人が一か月使える量）



私たちの活動に車両は必要不可欠

地球環境に配慮した活動

地球温暖化対策、脱炭素化など、地球環境に配慮した社会活動が強く望まれている中で、私たちの人道支援活動においても同様に地球環境への配慮が必要です。人道支援だから、緊急救援だから何をしても良い、という訳にはいきません。

私たちの活動において、最も地球環境に影響を及ぼすものが、私が担当するロジスティクス分野の業務です。支援物資を作る、運ぶ、保管する。活動に必要な車両を使う。電気や燃料を消費

する。これらは全て人道支援活動に欠かすことができない行為です。私たちに必要かつ継続して行う行為だからこそ、私たちはロジスティクス分野において工夫をしなければなりません。

ウクライナ人道危機支援の現場において、私たちは地球温暖化対策を講じています。ハイブリッド車を活動車両に採用する。使用目的に適した車両を利用する(市街地では SUV よりセダンやコンパクトカーを利用)。物資調達は可能な限り現地で調達し、輸送距離を減らす。支援物資を入れる段ボール箱の表面にはコーティングなどをせず、茶色のまま使用することで、コーティング溶剤の使用を削減し、物品の軽量化で輸送負荷を軽減する。このように活動現場の状況や支援内容を見極めながら、可能な対策を継続しています。

一点、活動現場で私が悩んだことは、優先順位とバランスのとり方です。これまでは、私たちの活動の効果・効率性、避難されている方のニーズ、私たちの安全確保などに焦点を置いていましたが、ここに地球環境への配慮が加わりました。先に記した通り、特にロジスティクス分野は地球環境に大きく影響を与えるため、対策を講じるとその効果は大きいですが、一方でその対策が他の要求項目に影響を与えることも大いにあります。これについては、引き続き知見を広げていきたいと思います。

様々なチャレンジ① 言語と翻訳アプリ

先にご紹介したとおり、モルドバの公用語はルーマニア語で、ロシア語も一般に通じます。それでは英語はどうか。ヨーロッパは陸続きで人の往来が活発なため、英語を話せる人が多いイメージを抱いていましたが…

外国人が出入りする首都キシナウのホテルやレストランでは英語は通じ易く、学生など若年層も英語を使える人が多いです。一方、英語によるコミュニケーションが難しい場面も多かったです。私の仕事相手のモルドバ赤十字社倉庫担当者も、あまり英語が通じませんでした。

そのため、頻繁に利用していたのが翻訳アプリです。会話や SNS でのやり取りを、英語⇄ルーマニア語で翻訳してコミュニケーションを取っていました。非常に便利な世の中になったなと感心していましたが、活動地の文化や言葉を尊重することの大切さも重々理解していますので、ルーマニア語とロシア語の挨拶や曜日、数字は勉強しました。ちなみにルーマニア語で「こんにちは」は「Bună ziua(ブオナズィウワ)」と言います。こんにちはを早口で言ったように聞こえるため、真似て話したところ、ネイティブのような発音と驚かれました。

様々なチャレンジ② 初〇〇尽く

緊急救援による海外派遣において、前回と同じ環境や同じ業務内容になる派遣はありません。今回の活動環境(紛争下)、ポジション(連盟専門スタッフ)、エリア(東欧地域)、これらは全て私にとって初めての状況になります。この他にも初めてのことが多く、活動初期は状況に慣れて理解することから始まりました。初めてだからこそ勝手がわからず、円滑に進められないことにヤキモキすることもありましたが、その時間を経験して得られたことも多く、初〇〇が自分に与える影響を改めて確認できました。

一つ言えることは、海外の緊急救援活動における初〇〇は心身共に大きな負荷がかかるため、日ごろから体力と気力は鍛えておかないといけません。

多国籍チームであり専門家集団

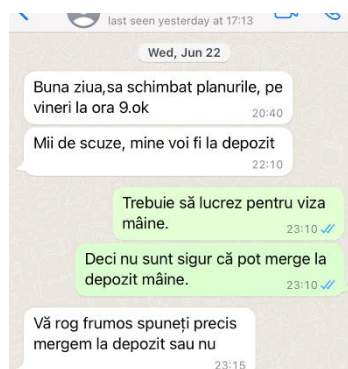
私が活動していた連盟チームについて紹介します。連盟は今回の人道危機対応においてウクライナおよびその周辺国で活動を展開しており、各国でチームを作っています。連盟チームの特徴は、多国籍のスタッフで構成され、スタッフ各々が専門家であるということです。活動状況に応じてスタッフは入れ替わり、例えば保健衛生に関する調査が必要な場合は、保健衛生の専門スタッフがチームに加わります。

モルドバの連盟チームは常時 10 名前後で構成され、他国のチームに比べて規模は小さい方です。スタッフの出入りがあるため、チーム全員が違う国の出身という時も度々あります（日本人は私一人でした）。また、各々の専門分野のスタッフがチーム内に 1 名のみの場合が多く、各スタッフに求められる専門性や責任も必然的に強くなります。とはいえ、専門家集団だからこそ皆で知識を持ち寄りチームプレイで計画遂行や課題解決に取り組んでいく雰囲気があるのも連盟チームの特徴です。

今回の派遣では 40 名以上、25 カ国のスタッフと直接出会って活動をしました。オンラインも含めるとその数は膨大です。人脈作りができる点も連盟チームの大きな特徴です。この業界あるあるで、派遣地で出会った人と数年後に別の派遣場所で再会することがしばしばあります。今回の派遣においても、5 年前のバングラデシュでの派遣や 3 年前の研修でお会いした方とモルドバで再会しました。次回の派遣では誰と出会い、再会するのか、楽しみです。



左からアゼルバイジャン、日本、モルドバ、アメリカ、スウェーデン、オランダ、フィンランド、スペイン



ルーマニア語でSNSのやり取り